

# 第18回環境コミュニケーション大賞 「環境活動レポート部門」作品募集

環境コミュニケーション大賞は、優れた環境報告書等を表彰することにより、事業者等の環境経営及び環境コミュニケーションへの取組を促進するとともに、環境情報開示の質の向上を図ることを目的とする表彰制度です。

エントリー開始  
**9月18日**  
(木)

エントリー締切

**11月7日**  
(金)

当日消印有効

奮ってご応募ください!

## 環境コミュニケーション大賞が変わります!

### 表彰事業者数を拡大します!

近年環境活動レポートの水準が高くなっていることから、一定水準以上のレポートのうち、同業他社や同等規模の事業者の参考になる報告書を優良賞として表彰します。

### 全応募事業者に対し フィードバックします!

環境コミュニケーションに様々な立場から携わる専門家による、今後のレポート作成に役立つフィードバックを全応募事業者に個別に行います。

### 受賞者の声

第17回環境コミュニケーション大賞  
環境活動レポート部門大賞受賞

株式会社 北陽商会

#### 大賞を受賞して

当社は、新見市の中で環境に配慮した自動車整備の「オンリーワン」になるための戦略として、エコアクション21の認証を取得するなど環境経営を実践してきました。そうした取組を



山崎保彦 代表取締役社長

「環境活動レポート」にしっかりと表現して、地域の皆様とのコミュニケーションを図ってまいりました。

今回の大賞受賞がきっかけで、地元メディアに紹介されたことで、当社の所在エリア以外の、当社社員が居住する地域でも、近隣の皆様から「新聞で見たよ」や「ケーブルテレビに出てたね」とお声がけいただくようになり、社員一人ひとりにとっても仕事に対する誇りや、やりがいをこれまで以上に感じられるようになったと感じています。

#### 環境コミュニケーションの取組で意識していること

「環境活動レポート」を地域の皆様とのコミュニケーションツールとして、「使えるもの」となるよう、掲載する情報の内容にも工夫をしています。地域の情報や家庭での環境活動に役立つ情報なども提供したり、見やすさの点でも数値情報はグラフ化するなど、「伝わりやすさ」を志向しています。また、手にとってもらいやすいようなサイズで作成するなど（A4サイズをA5に変更）改善をしています。



社員の皆さん

#### 環境コミュニケーション大賞に応募する意義

応募すること自体がレポートの質の向上にはとても有効です。制作段階では、審査を受けるのに相応しい内容とすべく、作成担当者が何度も見直したり、従業員全員で何度も読み直して修正を加えます。その見直しの過程は、日々の事業活動の振り返りにもつながり、次年度のレポートづくりに向けての気付けや、従業員の環境への活動への変化をもたらすきっかけになっていると思います。

毎年継続することで、今では社員一人ひとりが自発的に環境活動に取り組むようになってきたと実感しています。

#### 企業概要

設立年：昭和27年 所在地：岡山県新見市 従業員数：14名  
業態：自動車整備・環境保全工コ整備等

主催 環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム

協賛 一般社団法人サステナビリティ情報審査協会

協力 一般財団法人持続性推進機構、日本公認会計士協会（申請中）

後援 株式会社東洋経済新報社、一般社団法人日本経済団体連合会、日本商工会議所、株式会社日本取引所グループ

## 平成26年度環境コミュニケーション大賞運営方針

環境問題が大規模かつ複雑になっている現在、中小企業が環境経営に取り組むことが一層期待されています。例えば、大企業は自社の取り組みだけでなく、バリューチェーン、中でもサプライチェーンでの環境・社会影響にも責任を問われることも増えてきております。そこで、一次取引先だけでなく、最上流までグリーン購買・CSR購買を広げつつあります。来年の気候変動枠組条約締結国会議（COP21）では2020年以降の枠組みが確定することになっており、今後我が国も新たな削減目標を設定し、その達成のために対策を一層強化していく方針です。

こうした状況の中で、自ら環境等に取り組みいかなる状況にも対応できるようにすることは、企業の持続可能な発展には欠かせない活動と言えます。しかしながら取り組むだけで何も発信がなければ、取引先・金融機関・自治体などの重要なステークホルダー（組織を取り巻く関係者）に正しく理解してもらえません。

その有効な手段がエコアクション21であり、環境活動レポートです。簡潔かつ読みやすい環境活動レポートはステークホルダーの信頼を高めます。それだけでなく、企業にとって重要なステークホルダーである従業員の誇りにもなり生産性向上にもつながります。

このような中、第18回環境コミュニケーション大賞は、多様な立場の専門家による審査を実現するとともに、応募された全レポートに対しフィードバックを行うことで、応募事業者の環境コミュニケーションの質の向上に取り組めます。

## 第18回環境コミュニケーション大賞のスケジュール



(注)ワーキンググループ委員会では、環境報告書に様々な立場から関わる専門家が、それぞれの立場から報告書の審査を行います。

(例：学識経験者、事業者、会計士、環境コンサルタント等)

※ワーキンググループメンバーは、選考結果発表時に公表します。

### <環境活動レポート部門審査委員> (委員長を除く50音順：予定)

委員長：山本 良一 (東京大学名誉教授、東京都市大学特任教授)

大熊 一寛 (環境省総合環境政策局環境経済課長)

小澤 ひろこ (国際統合報告評議会 (IIRC) リレーションシップ・マネージャー)

上妻 義直 (上智大学経済学部教授)

後藤 敏彦 (環境監査研究会代表幹事/G4マルチステークホルダー委員会アドバイザー)

佐藤 泉 (弁護士)

寺田 良二 (一般社団法人サステナビリティ情報審査協会副会長)

藤村 コノエ (認定NPO法人 環境文明21共同代表)

森下 研 (一般財団法人持続性推進機構専務理事)

八木 裕之 (横浜国立大学国際社会科学研究院教授)

和貝 享介 (日本公認会計士協会常務理事)

## 第18回環境コミュニケーション大賞 審査委員長 山本良一氏からのメッセージ



山本良一氏

環境コミュニケーション大賞は、前身の「環境アクションプラン大賞」や「環境レポート大賞」もあわせると、今年で18回目を迎えます。その間、企業の環境報告を取り巻く環境は大きく変わってきました。今年はエコアクション21の制度が始まり10年の節目ですが、この10年間で中小企業に期待される環境配慮への取組は飛躍的に高まり、今後もますます高まっていくと考えられます。

このような環境下で、事業活動を通じて企業がどのように環境に貢献できるのかを開示することは、企業にとってますます重要なことになってきています。

ぜひ、貴社の環境コミュニケーションのあり方について考えるきっかけとして、第18回環境コミュニケーション大賞へご応募いただければと思います。

### ●本事業について

環境省総合環境政策局環境経済課  
課長補佐：齋藤 担当：大川、永宮  
電話：03-5521-8240

### ●お申込等に関するお問合せ（事務局）

株式会社ダイナックス都市環境研究所  
担当：谷口、北本、佐久間、江澤  
〒105-0003 東京都港区西新橋2-11-5TKK 西新橋ビル3F  
電話：03-3580-8221 メール：eco-com18@dynax-eco.com